
Ordinary sweethearts

成瀬寛人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Ordinary sweet hearts

【Nコード】

N9602D

【作者名】

成瀬寛人

【あらすじ】

どこにでも居るような、普通の恋人達のとある出来事の話です。

私と彼は学生の頃
ただ席が近かったという理由で
仲良くなりました。

あの頃は一緒に居る事になるなんて全く考えられませんでした。

ただの仲良いクラスメイトでも
付き合い始めると何故か馬鹿みたいに大切な人になります。

お互いなんで好きかわからないくせに
とても強く魅かれ合って
いつしかすべてを捧げて愛し合います。

そんなどこにでも居るような、普通のカップルです。
学校が終わったら会う
ない日や代休は一緒に出かける
学校でも時々話したりする
もちろんメールは毎日ずっと
そんな日々がずっと続くと思いました。
結婚の約束も何度もして、愛し合いました。

しかし、私は愛した人を忘れて他の人を愛せる生き物みたいです。
そう、好きな人が別に出来ました。

そんな日の出来事の話です。。

「最近なんかちょっと変わった気がするけど？」

『ううん、別に何もないよ』

「俺のこと愛してる？」

『…うん』

「なんか…やっぱり変だよ」

『ごめんなさい。』

「何か悪い事したの？」

実は私はその好きな人ともう一緒に帰ったり…キスまでしてしまったのです。

『なんか…好きなのかわかんなくなっさ…』

これが精一杯のごまかしでした

「急にどうしたんだよ。」

『ごめんなさい…ごめんなさい。』

「なんだよ、何回も謝るなよ！」

『ごめんなさい…』

「なんなの？浮気でもしてんの？」

僕は浮気は絶対してない自信があったから、こんな事を言いました。

『…気になる人が出来ただけ…』

「…えっ?…!」

僕は身体が浮くような…この心臓が浮くような…恐怖とか不安とか何か胸が苦しく浮くような感覚にとらわれました。

「ふ、ふざけんなよ!!昨日まで、愛してるって言ってただろ!!」

僕は冷静さを完全に失ってました

『…あたし…帰るね。ごめん…』

私は一秒でも早く逃げたくて、走って出て行きました。

「おい、待てよ!!」

僕はおびえる身体で追いかけてました。

私は彼の家の階段をかけ降りて、いつも二人で手をつないで帰る道を走って行きました。

私は彼が追いかけて来てくれることを期待し、追いかけて来てることに喜んでました。

そして当然彼は追いついて来ました。

「おい、どうゆうことだよ…」

『…あたしの事なんて忘れて…』

つい言ってしまったこの言葉…

「…。」

僕は魔法にかけられたかのように固まりました。

そして私はかけ足で帰りました。

僕は無意識で追いかけてました

私は彼が追いかけて来てるのをわかって居ながら、振り向きませんでした。

ドッ…！

鈍い音がしたので、私は反射的に振り向きました。

そしたら彼が居ません

私は彼が諦めたのかと思って悲しんで目を背けたら

何故か向こう側に彼と同じ格好をした人がうつぶせていました

『…？』

何が起こったのかわかりませんでした。

私は胸騒ぎとともに身体が浮くような感覚にとらわれました

…何が起こったか理解したのです。

彼は私を追いかける事で周りが見れずに引かれたのです。

わずか…数メートル先で、彼は私の手の届かない場所まで行ってしまったのです。

私は…この時気がつきました。

彼が世界で一番…私の生涯でもっとも大切に…愛してる人だと

しかし…もう遅過ぎました

私は今日が最後だと思っていませんでした。

甘えて居たのです。

あとからなんとでもなると…

だって…こんなにも、最後が身近にあり…ましてや彼がそんな事になるなんて全く考えられませんでした。

あまりにも取り返しのつかない後悔でした…

人はどうして、大切なものを失ってから気が付くのだろう？

もし…もし大切な事をわかっていれば…

もし…もしあなたと過ごす日々が明日終わる事を知っていたら…

そう…わかってさえいれば…っと。

後悔の渦でした。

もし…あなたが大切だとわかっていたなら
どんなに甘い誘惑にも…惑わされなかった…

もし…あなたと過ごす日々が明日終わると知っていたなら
どんな些細な事にも幸せを感じ…大事に過ごしたのに…

過ちに気が付いた時、まだ物語が続いてる事に気が付いていたら
私はもっと早くあなたの胸の中で泣き続けて…ごめんなさいと心か
ら言っただのに…

大切な人が思い出になる事がこんなに辛い事だと知っていたら
どんな時もあなたのそばですっと笑顔で居たのに…

想ってるだけでは伝えきれないとわかっていれば
一生かけて心から伝えたい想いを…伝えたのに…

当たり前の日々がもう戻らない日々になる事を知っていたれば
心から感謝して…あなたにありがとうと笑顔で言えたのに…

もし…もしもあなたとまた会えるなら

真っ先にかけてより

強く抱き締めて

こつ言いたい

『ずっと一緒に居ようね。』

（後書き）

読んでいただきありがとうございます。誰にいつ何が起きてもおかしくありません。皆様が日々を大切にしていただければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9602d/>

Ordinary sweethearts

2010年12月30日14時34分発行